

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	・年度内に2度実施する生徒対象学校評価アンケートにおける満足度の向上 ・英語検定の評価（準2級の合格率）の向上
計画名	「英語の梅花」学力向上プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 英語教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領第2章第8節目標を達成する為に音声指導にも有効であるICT機器（電子黒板）を整備する。</li> <li>・英語教員のスキルアップのためにベルリッツ・ジャパンと教育連携を結び、電子黒板を用いた授業のコンテンツや教授法の研究を行う。</li> <li>・全校生徒の希望者（初年度は高1のみ）を対象に実施する特別講座に積極的に教員自身も参加することにより先進的でインタラクティブな欧米式の教授法習得を目指す。</li> <li>・上記で習得した電子黒板と教授法を用いた研究授業を積極的に実施し、通常の授業にフィードバックさせる。</li> </ul>
事業目標	<p>「英語教授法の改善」のためにICT（電子黒板）を積極的に活用し、英語の4技能の学力向上をめざす。同時にベルリッツ・ジャパンの教授法を教員が習得することにより生徒の授業満足度と英語力の向上をめざす。</p> <p>&lt;数値目標&gt;（目安として高校1年生を対象とする）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生に対し満足度調査を実施し、「先生の授業は内容も適当でわかりやすい」「資料や映像を使って興味がわくような工夫をしている」の指標3.4ptをめざす。（満点4.0pt）</li> <li>・2016年1月実施の英語検定準2級を受験者の25%（国際コースは50%）の合格をめざす。以降は単年度ごとに5%上昇させ、2年後には35%（国際コースは60%）を達成する。</li> <li>・3年目以降はそれぞれ40%、70%以上の合格をめざす。</li> </ul>
整備した 設備・物品	電子黒板機能付プロジェクター（超短焦点）9台、ベルリッツ・ジャパンとの教育連携に対する講師派遣料、ホワイトボード
取組みの 主担・実施者	副校長
本年度の 取組内容	<p>英語教員はベルリッツ講師の授業を見学し、電子黒板の利用のノウハウはもとより教授法の参考になる点も多くスキル向上にも寄与した。</p> <p>国際コース3教室、視聴覚教室2教室、特別教室4教室、合計9教室に電子黒板機能付プロジェクターを整備し、一部の教室の黒板をホワイトボードに変更した。その整備に合わせて今年度より教員のコアチームとして組織された「ICT教育推進委員会」の11名（副校長、教頭を含む）を中心に電子黒板を用いた研究授業を実施した。第1回の研究授業は10月22日から29日の間に5名の「ICT教育推進委員会」に所属する教員により実施した。（教科は英語、国語、数学、理科、地歴・公民）以後委員会のメンバーにより全教職員を対象とした「電子黒板操作法講習会」を各教科ごとに実施した。全員が操作法を習得したことを確認後、3学期の1月12日から27日の間に「ICT教育推進委員会」以外の9名による第2回の研究授業を実施した。第2回目は保健体育科と宗教科の研究授業も行われた。2回の合計で14名が研究授業を実施し、各研究授業では毎回非常勤講師を含め12名から20名を超える見学者があり、のべ参加者数は200名を越え、教員の関心の高さが表れる結果となった。</p> <p>実施後には参加者に「フィードバックシート」の提出を義務付け、研究授業担当者にフィードバックした。現在は次年度の1学期に「ICT教育推進委員会」のメンバーを中心とした「アクティブ・ラーニング」を基本とする研究授業を計画している。</p>
成果の検証方法 と評価指標	「ベルリッツ Brush up 講座」についてはアンケートを実施し、その結果を検証し、次年度のクラス分けやテキスト選定の材料にする。また、英語検定準2級の合格率を評価指標として採用し、合格率アップにつなげていく。電子黒板については年齢や性別に関係なく専任の全教職員が一定の操作方法を習得することにより生徒への教育サービスの均等化をはかる。
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ベルリッツ Brush up 講座」の受講者のアンケート結果からは成績上位者からの満足度がやや低かった。理由としては、時間的制約もあり習熟度別クラス編成ができなかったことにより、クラスの生徒の学力差が生じたことが大きい。生徒は想定以上に高いレベルの内容を求めていることが明らかとなった。（△）</li> <li>・また数値目標としていた準2級合格者は国際コースの生徒が述べ16人が受験した結果、合格者は3名であった。目標値を下回っており、アンケート結果を踏まえて次年度に向けて取り組む必要がある。（△）</li> <li>・電子黒板についてはアンケートの結果の中に実際の使用時間が長すぎる点や目の疲れ具合などの指摘もあり、来年度への課題を残した。一方動画や画像を用いたことにより授業がわかりやすいという意見も多く、初年度の取組み全体としては一定の評価はできる。（○）</li> </ul>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ベルリッツ Brush up 講座」については習熟度別クラス編成の為にGTECの結果や入試結果を参考にし、また英語科による英語面接を実施するなどの方法を新たに講じる。アンケートの中で指摘があった教室の照明や実際に使用する時間についての問題はすでに総括済みであり、次年度当初の授業から徹底する。</li> <li>・「ICT教育推進委員会」を中心に次年度1学期中に「アクティブ・ラーニング」の研修会を実施する。</li> <li>・また新たに学園予算で12台の電子黒板が設置されることになったので設置教室を年度末には決定し、夏季休暇中に工事にかかる。1学期には2学期より増設されるクラスで広く電子黒板を用いた授業が展開される予定である。</li> </ul>